



※本製品は木造合板捨て張り下地専用です。根太組みへの直接施工、
 コンクリート下地への直接施工はできません。

●不具合の原因となりますので、下記事項をお守りください。

動画で施工
 方法を確認
 できます。



開梱は施工直前に!

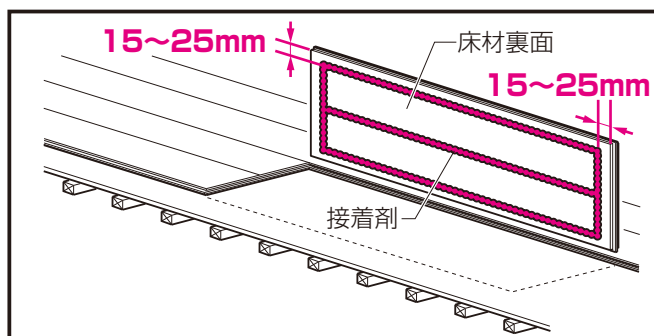
●環境湿度の影響を受けにくくするため、防湿梱包になっています。水漏れに注意し、**開梱後は速やかに施工してください。**吸湿によるソリ、曲がりなどが発生する原因となります。

濡れた下地に施工しない!

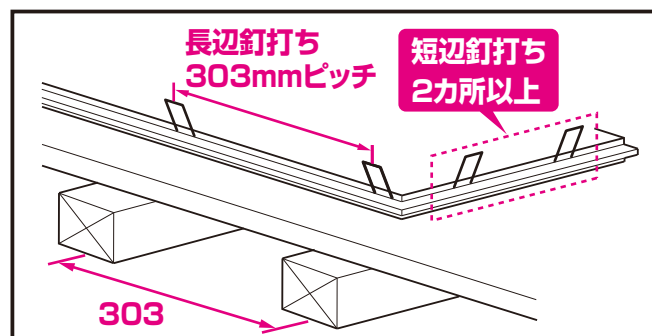
●下地合板の**含水率は14%以下**のものを使用してください。下地が水ぬれした場合は、下地の含水率が14%以下になったことを確認してください。含水率が高い状態で床を施工すると、水分が床材に移行して波打ちやフクレなど不具合の原因になります。

一般施工時

接着材塗布箇所

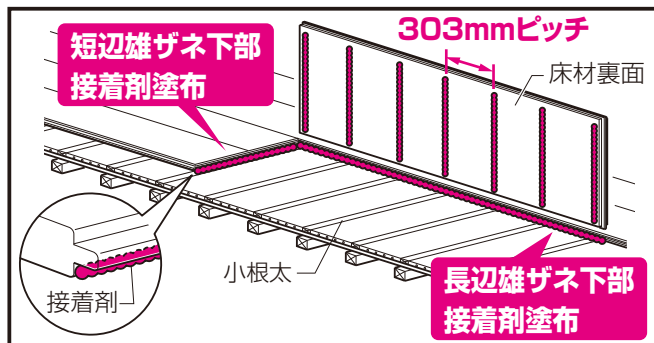


釘固定箇所

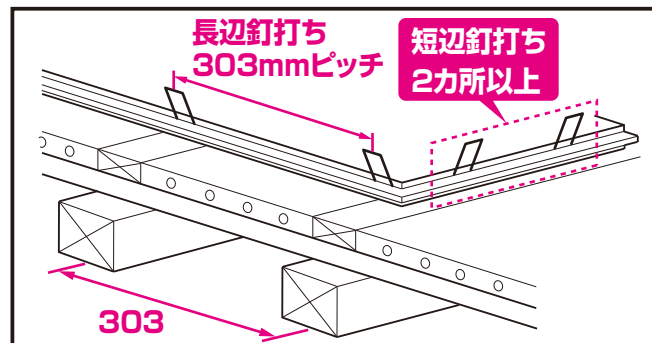


床暖房施工時

接着材塗布箇所



釘固定箇所



施工前のお願い

- 施工前に各部材を必ず検品してください。製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買い上げ店までご連絡ください。施工後の色調不具合・キズなどによる交換は、お受けできませんのでご了承願います。
- 水がかかったり、直射日光のあたる場所に置かないでください。ソリ・ねじれなどの原因になります。
- 本製品と異なるシリーズの製品を連続して貼らないでください。突上げや目すきの原因になります。

●本製品は、屋内用です。土足で使用する場所や水がかかったり、極端に湿度が高い所には使用できません。濡れた場合は、すぐに乾いた布でふき取り、乾燥させてから養生してください。基材のフクレやソリ・ねじれの原因となります。

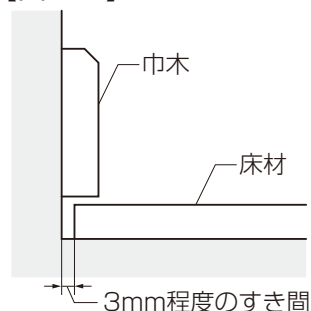
●コンクリート下地に床下地組み（乾式二重床など）をする場合は、コンクリート含水率が10%以下となるよう乾燥させてください。（ポリシートの四周を布テープ止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後シート下のコンクリート面が黒く変色していない程度）処理が十分でないと床材が床下からの湿気を吸い、フクレを生じたり床材裏面にカビが発生する原因となります。

※土間暖房、コンクリート埋設型の床暖房など、床下に暖房システムを組込む際は特にご注意ください。

●二重床下地の場合は、二重床メーカーの施工説明書を読み、注意事項を守って正しく施工してください。

●床材の伸び縮みを考慮し、壁際には3mm程度のすき間を取ってください。

【図-1】



【図-1】

●張合わせは3尺ずらしのレンガ張りをおすすめします。

※取付け前に仮並べて色・柄のバランスを確認してください。

施工上のお願

1 下地について

●在来工法（合板捨て張り）の場合、大引きは90mm角以上で間隔は909mm以下、根太は45mm角以上で間隔は303mmとし、含水率は15%以下の乾燥したものをお使いください。合板は厚み12mm以上のものをお使いください。【図-2】

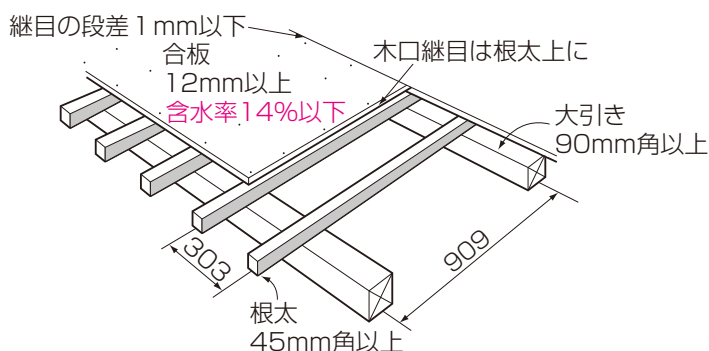
●根太レス工法（構造用合板捨て張り）の場合、大引きのピッチが尺モジュール（909mm）の場合は厚み24mm以上、メーターモジュール（1000mm）の場合は厚み28mm以上の構造用合板を使用してください。【図-3】

●合板および構造用合板の含水率は14%以下のものを使用し、水平で段差のないように施工してください。（段差は1mm以内としてください。）【図-2、図-3】

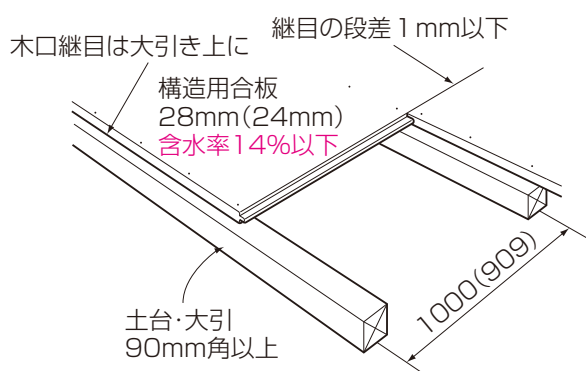
●下地合板が濡れていたり、含水率が高い（14%を超える）状態で床を施工しないでください。水分が床材に移行して突上げなど不具合の原因になります。

●下地組みをするときには接着剤を塗布し、ねじ等で固定してください。

【図-2】 在来工法の場合



【図-3】 根太レス工法の場合



2 床の固定

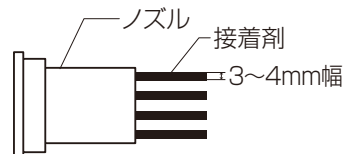
●床材と捨て張り材の継ぎ目は同位置にならないよう、縦・横とも100mm以上ずらしてください。段差の発生や床鳴りの原因になります。

●接着剤は、下記いずれかのものをご使用ください。

接着剤	品番	使用量の目安
LIXIL専用ウレタン接着剤	LZZZZ036	1.5坪/本
コニシ製接着剤	KU928-CX	1.5坪/本

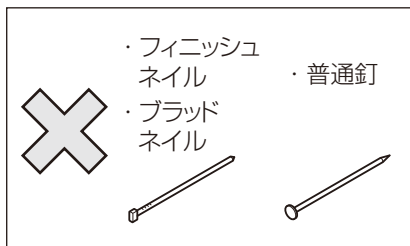
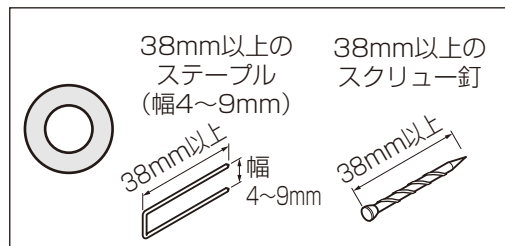
※1本:760ml

左記接着剤に付属の専用4穴ノズルは、適正量が塗布できるよう、あらかじめ穴があいています。

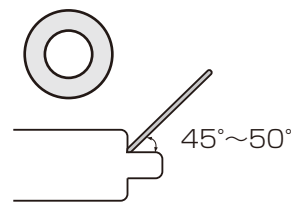


- 床材の固定には接着剤を併用し、フロア専用スクリー釘(38mm以上)またはフロア用ステーブル(38mm以上)で根太位置を狙って打込んでください。(根太レス工法の場合303mmピッチ)
床材と捨て張り材のみの固定ではソリ・床鳴りの原因となります。フィニッシュネイルやブラッドネイルは使用しないでください。固定強度の低下の原因となります。【図-4】

【図-4】

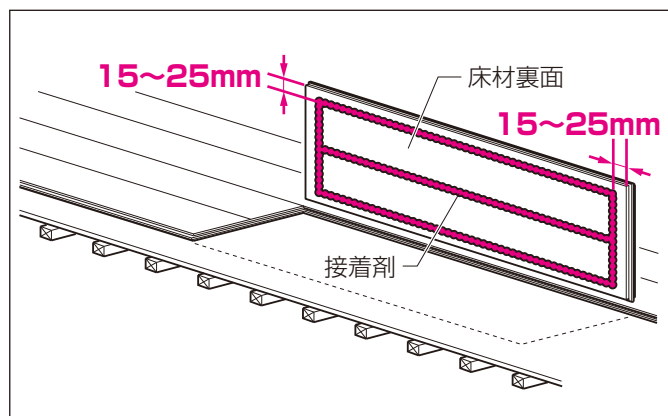


【図-5】

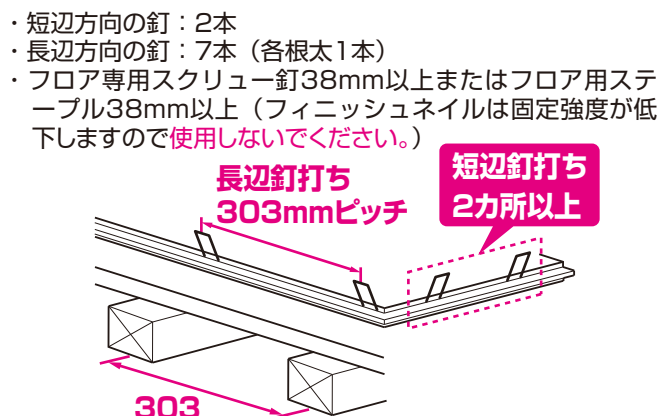


- 釘を打つ角度は45°~50°で打ってください。釘頭はポンチで沈め打ちしてください。釘打ち角度が低くなると、表面フクレの原因となります。【図-5】
- 釘打ち機を使用する場合は、あらかじめ試し打ちなどでトルク調整を行ってください。
- 指定接着剤を下図の位置に塗布してください。【図-6】
- 床材の寄せ、はめ込みの際には、表面やサネを傷つけないよう、当て木を使用してください。
- サネ部はたたき込み過ぎないようにしてください。段違いや床鳴りの原因になります。
- 床材の浮きや突上げ、目すきを防ぐため、床材の短辺にも2本、釘打ち施工してください。【図-7】
- 接着剤がはみ出た場合は、石油ベンジンを布にしみ込ませてふき取ってください。

【図-6】

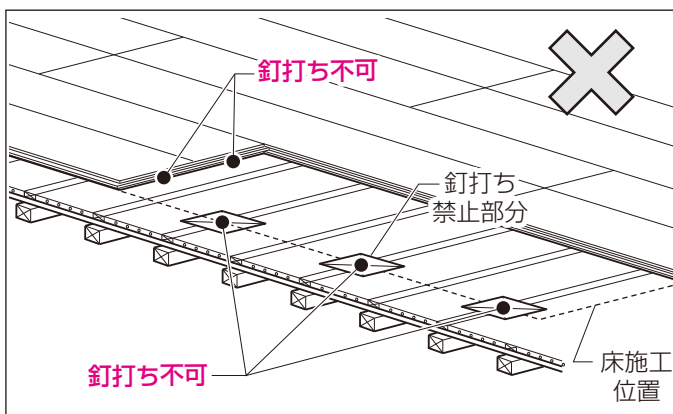
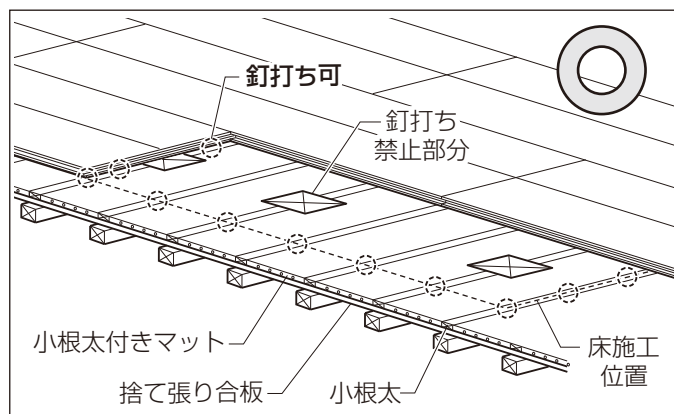


【図-7】



3 床暖房用仕上げ材として使用する場合

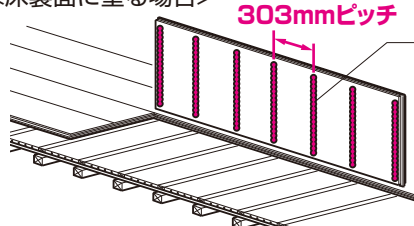
- ①床材の継ぎ目(短辺方向)は必ず小根太上にくるようにして寸法出しをしてください。
また、小根太以外の釘打ち禁止部分に床材の継ぎ目がこないように、あらかじめ割付けしてください。
※小根太の間隔は1尺(303mm)が基本となります。



② 指定接着剤を下図の位置に塗布してください。

床裏面に塗る場合は床材端部から303mmピッチで、小根太位置と合うように接着剤を塗布してください。下地材に塗る場合は、小根太とその延長線上に塗布してください。

<床裏面に塗る場合>

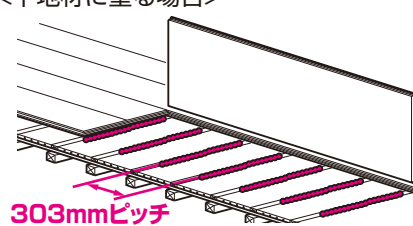


303mmピッチ

指定接着剤
付属の専用4穴ノズルを使用すると、
適正量が塗布されます。

※指定接着剤：床施工用接着剤
(LZZZZ036)

<下地材に塗る場合>

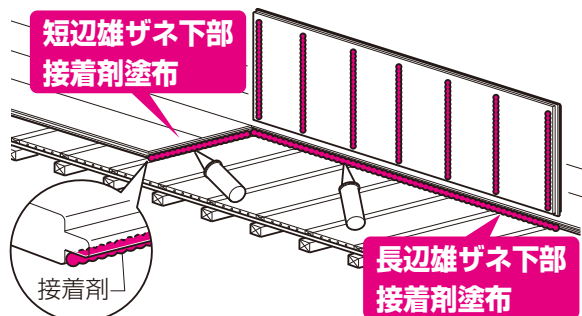


303mmピッチ

③ 指定接着剤を長辺と短辺方向の雄ザネの下部に塗布してください。

※短辺方向に接着剤を塗布しないと目すきやソリ、床鳴りなどの原因となります。

※指定接着剤(LZZZZ036)に同梱の円すいノズルをご使用いただくと、塗布しやすくなります。
(ノズル穴径4mm程度にカット)



短辺雄ザネ下部
接着剤塗布

長辺雄ザネ下部
接着剤塗布

接着剤

④ 床材は短辺方向、長辺方向に釘を打って根太に固定してください。(短辺方向2本、長辺方向各根太1本計7本)特に、短辺方向に釘を打ちませんと目すきの原因になります。

※釘はフロア専用スクリーナ釘(38mm以上)またはフロア用ステーブル(38mm以上)をご使用ください。

※釘を打つ角度は45°~50°が適当です。

※小根太付きマットの「小根太以外の部分」、その他床暖房システムの「釘打ち禁止部分」には釘を打たないでください。

- ・短辺方向の釘：2本
- ・長辺方向の釘：7本(各根太1本)
- ・フロア専用スクリーナ釘38mm以上またはフロア用ステーブル38mm以上(フィニッシュネイルは固定強度が低下しますので使用しないでください。)



短辺釘打ち
2カ所以上

長辺方向

短辺方向

小根太

上記施工方法以外の方法で施工された場合の目すきやソリ・床鳴りなどの不具合は、当社では責任を負うことができません。

施工後のお願い

- 施工後は、木くず・砂・ゴミを完全に取除き、養生シートやベニヤなどですき間なく養生してください。その際、必ず別売りの養生テープ(LZZZZ004)をご使用ください。市販のガムテープなどは粘着力が強いため、表面材のハガレの原因となります。
- 施工中、雨の吹込みにより、床材の表面が濡れたままになると、フクレやソリの原因になります。濡れたまま放置することはお避けください。
- 汚れのひどいときは、固く絞った濡れぞうきんでふくようにしてください。その後、乾いた布でふいてください。
- この床材は表面に汚れが付着しにくいよう、特殊処理を施していますのでワックスがけは必要ありません。お客様のご都合でワックスがけをされる場合は、リンレイ社の「ハイテクフローリングコート」をご使用ください。他のワックスを使用すると、不具合の原因になります。
- ワックスがけをされますと、表面がワックスの性能になり、本来の性能を損なう場合があります。
- ワックスご使用の際は直接床にまかないでください。表面フクレや突上げの原因になります。ワックスのまき塗りによる不具合は責任を負いかねますのでご了承ください。
- ワックスの使用方法を誤ると床材に異常をきたす場合がありますので、その他の使用方法についてはワックス容器記載の使用法をよくお読みください。
- ワックスはくり剤および溶剤(特にシンナーなどのトルエン・アセトン類を含むもの)は使用しないでください。床材を傷める原因となります。
- この床材は表面に特殊処理を施していますので、指定ワックス以外のコーティング処理を行った場合、コーティングがはがれる場合があります。指定ワックス以外のコーティング処理により生じた不具合については責任を負いかねますのでご了承ください。